

倭文庫十七編

第九編

万亭應賀作

~ 13
3749
9





Handwritten notes and a large red seal (Seal of the publisher, likely 'Shinshu-do') in the center of the left page.

釋迦八相倭文庫十七編序

嘉永三年庚戌
孟春發
市
江戶一
流戲作
元祖
方亭
應賀
誌

門入13
號3749
卷9

倭文庫

十七編

上冊

一陽齋豊國畫

万亭應賀作

錦皇堂

寿櫻

金次郎



庚戌
春
茂市

魔界長阿修羅
 王雪山の毘羅
 林志と金剛法
 石の座隠
 企つ及悉達太
 子の照普比丘阿
 修羅王へ熊の
 肉と捧る圖



雪山の
 毘羅の
 林志
 仙士



修羅王



白水仙の
水は清く
又
あまろ
水は清く
又
あまろ

白水仙の
水は清く
又
あまろ
水は清く
又
あまろ

白水仙の
水は清く
又
あまろ
水は清く
又
あまろ

白水仙の
水は清く
又
あまろ
水は清く
又
あまろ

白水仙の
水は清く
又
あまろ
水は清く
又
あまろ



白水仙の
水は清く
又
あまろ
水は清く
又
あまろ

白水仙の
水は清く
又
あまろ
水は清く
又
あまろ

白水仙の
水は清く
又
あまろ
水は清く
又
あまろ

白水仙の
水は清く
又
あまろ
水は清く
又
あまろ

白水仙の
水は清く
又
あまろ
水は清く
又
あまろ

白水仙の
水は清く
又
あまろ

安政三年丙辰春新板目錄

倭文庫	赤松譚	重井菱	譚柄瑠璃	茶番案文	神代とては茶	重本類錦繪
二十四編 三十五編 三十六編 三十七編	九編 十編	六編 七編	四編 五編	全冊	三編 四編	人形
萬亭應賀作	如淵外史作	為永春水作	西澤一鳳作	萬亭應賀作	同	上州屋重藏
陽齋豐國画			陽齋豐國画	陽齋豐國画	陽齋豐國画	

應賀作

豐國画



ついでにさうぢふふ王の長江
あまのり王をたがひめとあて
大畧のけんぢあれはあまのり
ちひしきあまのりの法置
神力自在はあまのりの法置
まうまう如きあまのりの法置
まうまう如きあまのりの法置
まうまう如きあまのりの法置
まうまう如きあまのりの法置
まうまう如きあまのりの法置

これはあまのりの世の中あて
人のあまのりをあまのり王の
あまのりのあまのりのあまのり
あまのりのあまのりのあまのり
あまのりのあまのりのあまのり
あまのりのあまのりのあまのり

一陽齋豊国画

新刊

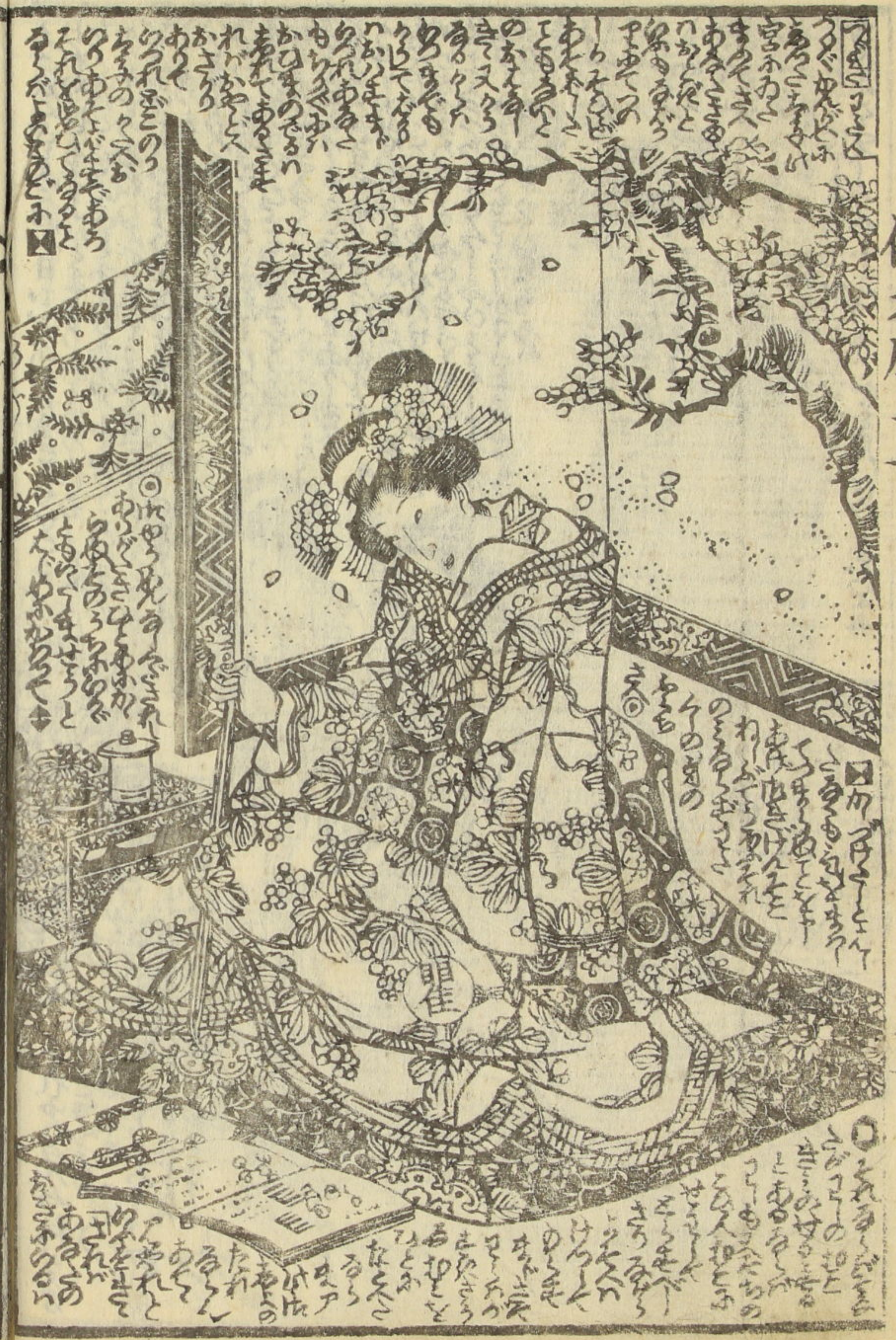


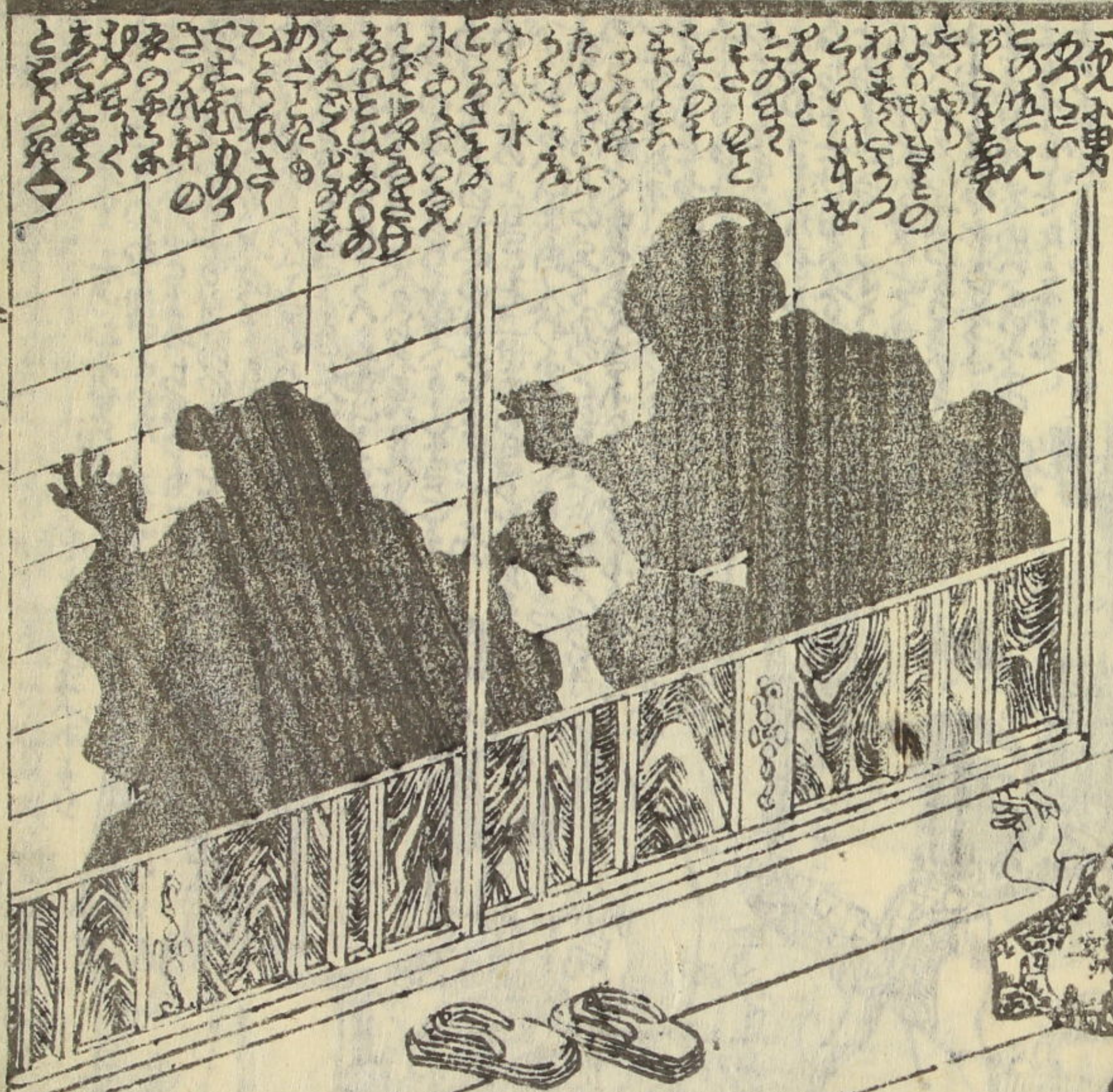
下

上州屋版









女は男
 の顔を
 見ると
 涙が
 止まら
 ず
 泣き
 出し
 ました
 男は
 彼女
 の顔
 を見
 ると
 胸が
 締め
 つけ
 られ
 た
 二人
 の心
 は
 一つ
 にな
 った
 水は
 流し
 なが
 れ
 ました
 空は
 曇り
 ました
 雲は
 泣き
 ました
 雨は
 降ら
 ず
 した
 けれど
 心は
 濡れ
 ました
 二人
 の手
 は
 離れ
 ず
 抱き
 合っ
 たら
 した
 涙は
 止ま
 らず
 泣き
 出し
 ました
 男は
 彼女
 の顔
 を見
 ると
 胸が
 締め
 つけ
 られ
 た
 二人
 の心
 は
 一つ
 にな
 った

女は男
 の顔を
 見ると
 涙が
 止まら
 ず
 泣き
 出し
 ました

二人
 の心
 は
 一つ
 にな
 った
 水は
 流し
 なが
 れ
 ました
 空は
 曇り
 ました
 雲は
 泣き
 ました
 雨は
 降ら
 ず
 した
 けれど
 心は
 濡れ
 ました
 二人
 の手
 は
 離れ
 ず
 抱き
 合っ
 たら
 した
 涙は
 止ま
 らず
 泣き
 出し
 ました
 男は
 彼女
 の顔
 を見
 ると
 胸が
 締め
 つけ
 られ
 た
 二人
 の心
 は
 一つ
 にな
 った



女は男
 の顔を
 見ると
 涙が
 止まら
 ず
 泣き
 出し
 ました
 男は
 彼女
 の顔
 を見
 ると
 胸が
 締め
 つけ
 られ
 た
 二人
 の心
 は
 一つ
 にな
 った
 水は
 流し
 なが
 れ
 ました
 空は
 曇り
 ました
 雲は
 泣き
 ました
 雨は
 降ら
 ず
 した
 けれど
 心は
 濡れ
 ました
 二人
 の手
 は
 離れ
 ず
 抱き
 合っ
 たら
 した
 涙は
 止ま
 らず
 泣き
 出し
 ました
 男は
 彼女
 の顔
 を見
 ると
 胸が
 締め
 つけ
 られ
 た
 二人
 の心
 は
 一つ
 にな
 った

女は男
 の顔を
 見ると
 涙が
 止まら
 ず
 泣き
 出し
 ました

二人
 の心
 は
 一つ
 にな
 った
 水は
 流し
 なが
 れ
 ました
 空は
 曇り
 ました
 雲は
 泣き
 ました
 雨は
 降ら
 ず
 した
 けれど
 心は
 濡れ
 ました
 二人
 の手
 は
 離れ
 ず
 抱き
 合っ
 たら
 した
 涙は
 止ま
 らず
 泣き
 出し
 ました
 男は
 彼女
 の顔
 を見
 ると
 胸が
 締め
 つけ
 られ
 た
 二人
 の心
 は
 一つ
 にな
 った

此の御成敗式目は、徳川幕府の法律を記したものである。この中に、土地の所有権、相続、婚姻、訴訟などの規定が詳しく記されている。また、武士階級の特権や、庶民の義務についても述べられている。この法律は、徳川幕府の統治を維持するために重要な役割を果たした。

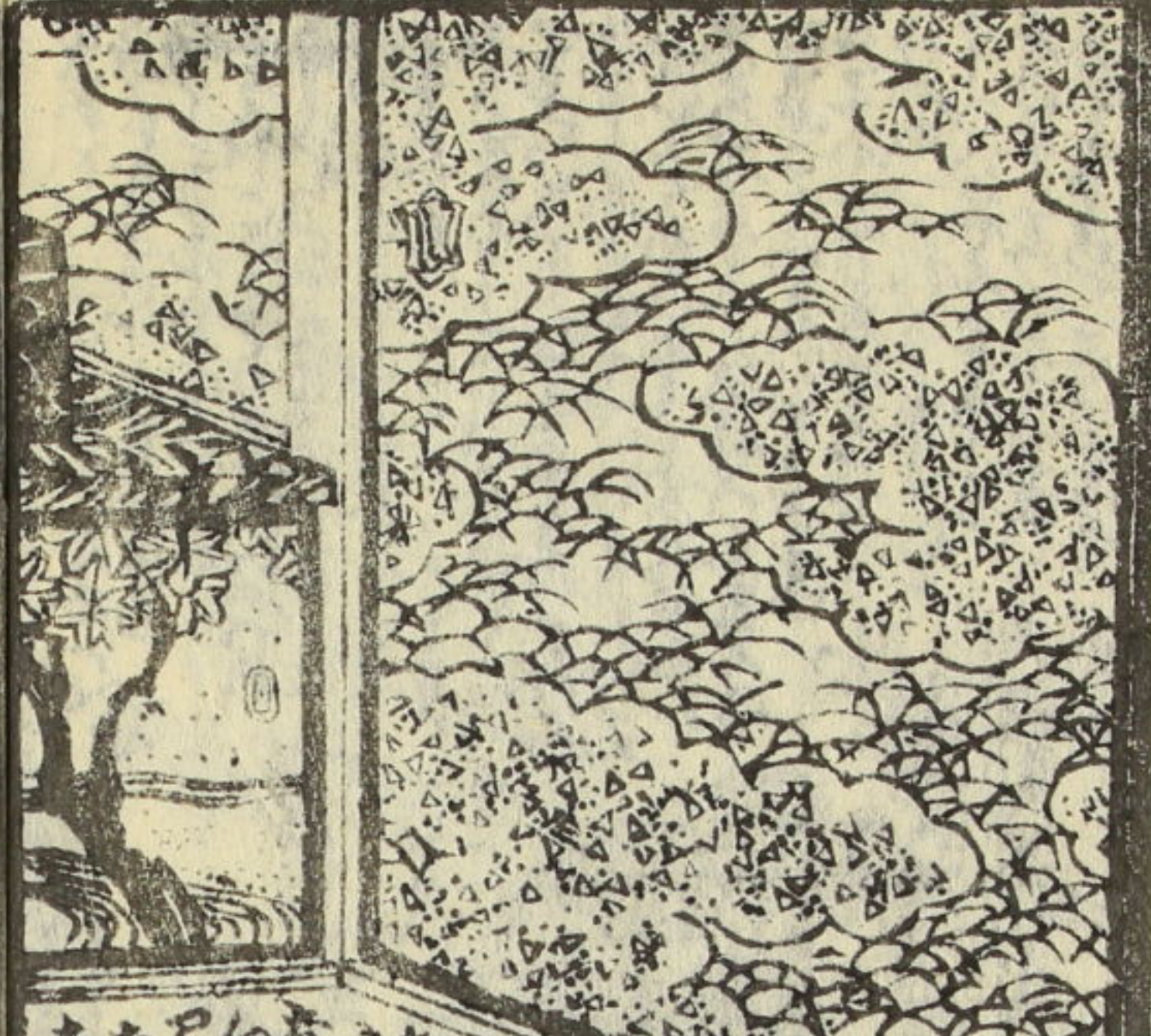
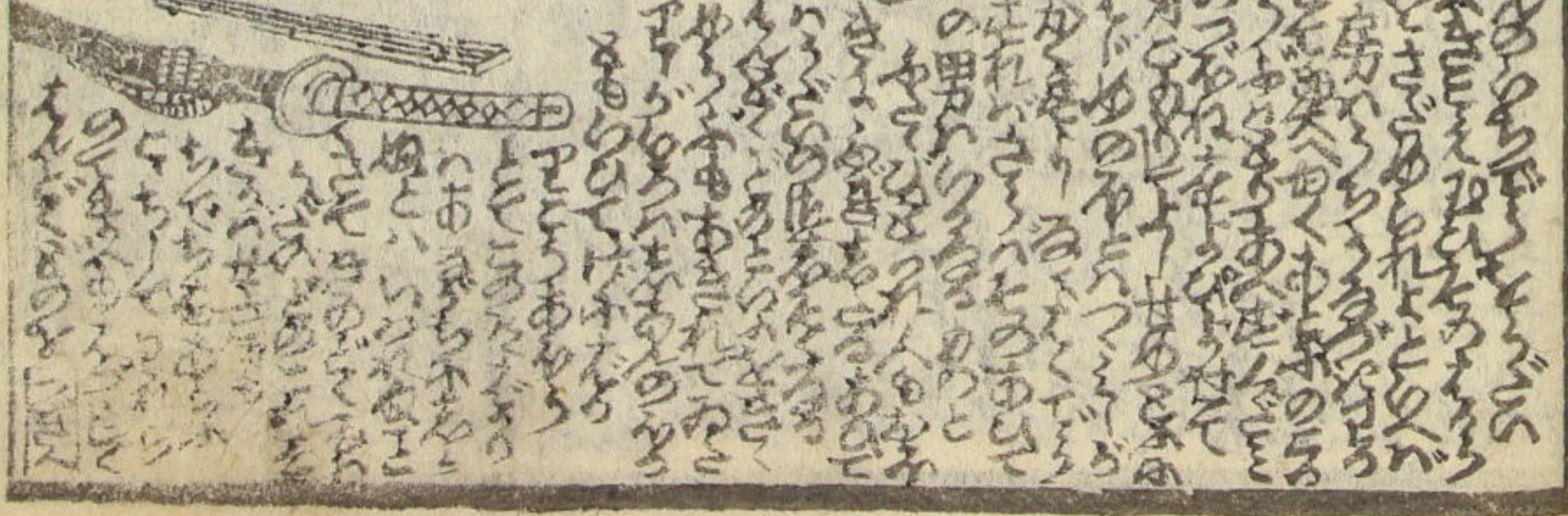
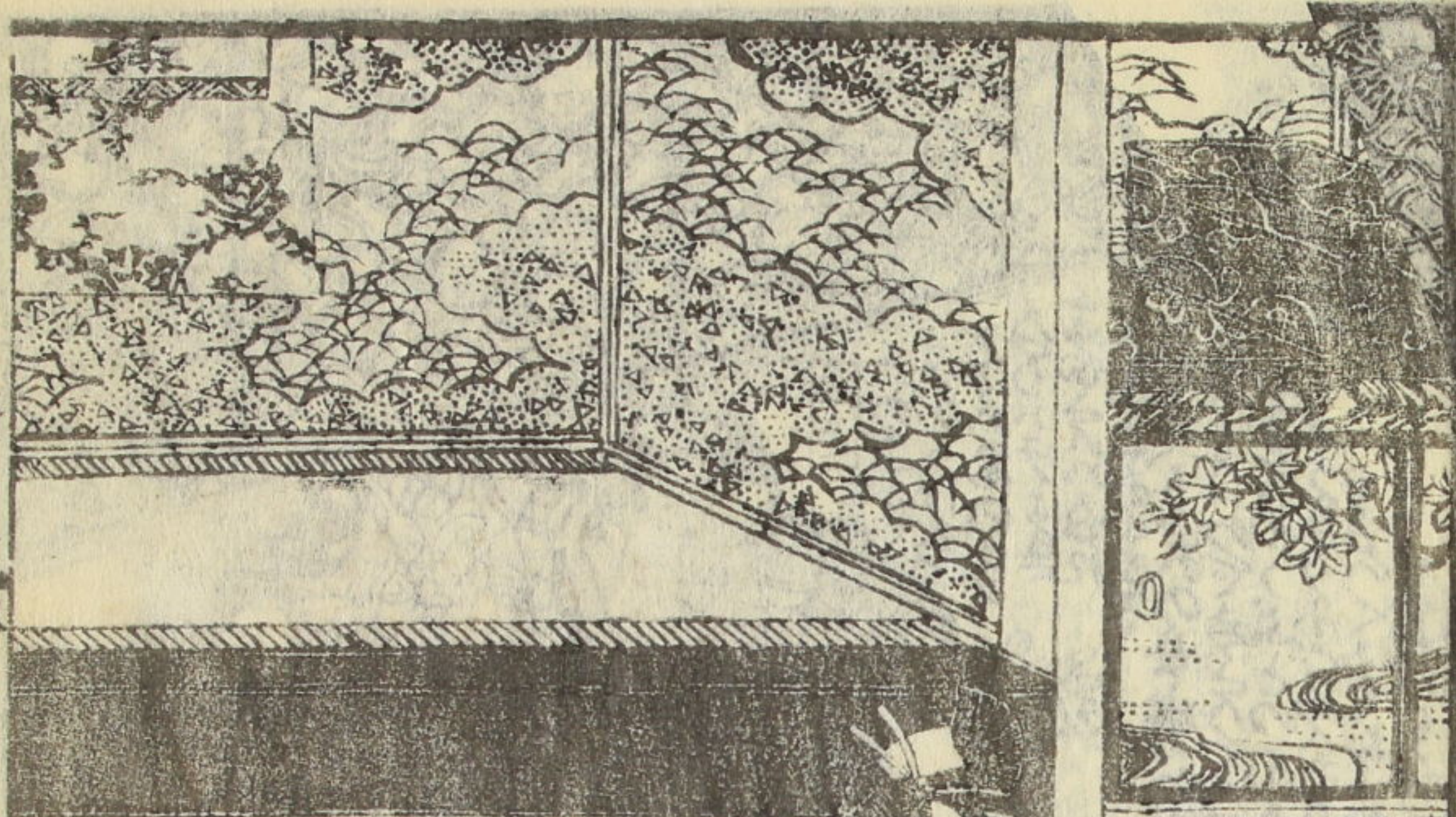


この挿絵は、徳川御成敗式目の一部を視覚的に表現している。画面には、和服を着た女性が座敷に座っており、周囲には生活必需品や家具が描かれている。これは、当時の生活様式や家庭のありかたを示している。

徳川御成敗式目には、土地の所有権に関する規定が非常に重要である。これは、幕府が土地を管理し、農民から地代を徴収するための根拠となっていた。また、相続や婚姻に関する規定も、家族の財産を維持するために不可欠なものであった。

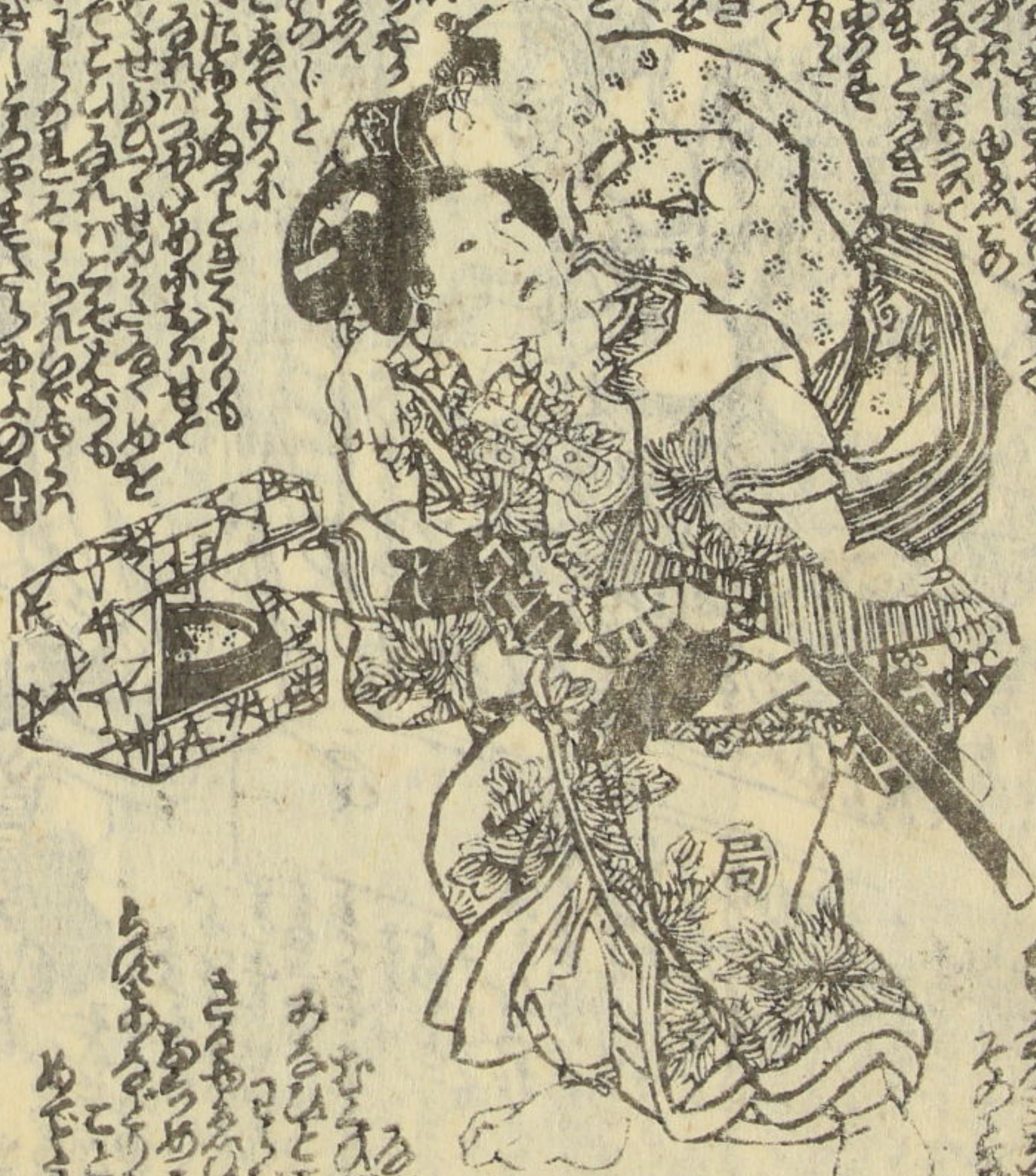


この挿絵は、徳川御成敗式目の一部を視覚的に表現している。画面には、和服を着た女性が座敷に座っており、周囲には生活必需品や家具が描かれている。これは、当時の生活様式や家庭のありかたを示している。



万亭應賀作の二陽齋豊國画

此の二陽齋豊國画は、
 萬亭應賀の筆によるもので、
 人物の描き出しが非常に
 巧みで、衣紋の表現も
 非常に丁寧である。また、
 背景の描写も、遠近感
 をよく表現している。この
 画は、江戸時代の浮世
 絵の風格を強く感じられ、
 当時の生活様式や
 服飾の細部までよく
 写し出されている。



安政三年丙辰春新板目錄

倭文庫出世双六
 万亭應賀作
 一陽齋豊國画

春の将碁双六
 同
 歌川貞房画作

男女役替双六
 同
 一陽齋豊國画作

大寶御江戸圖
 極上摺 奉書六枚半續
 此の江戸圖は、
 大寶御の御江戸の
 様子を描いたもので、
 非常に賑やかな
 光景が描かれている。

清元稽古本
 初編 二編 出板
 清元は、
 江戸時代の
 著名な落語家
 であり、この
 本は彼の稽古
 本として知ら
 れている。

常磐津懐中本
 初編 二編 三編 四編
 退く出板仕
 常磐津は、
 江戸時代の
 著名な落語家
 であり、この
 本は彼の懐中
 本として知ら
 れている。

極上摺 擬百人一首
 立齋 廣東 筆
 擬百人一首は、
 百人一首の
 擬作として
 知られている。

万亭應賀作



倭文庫拾八編



上



屋滿紙

久々

拾八編

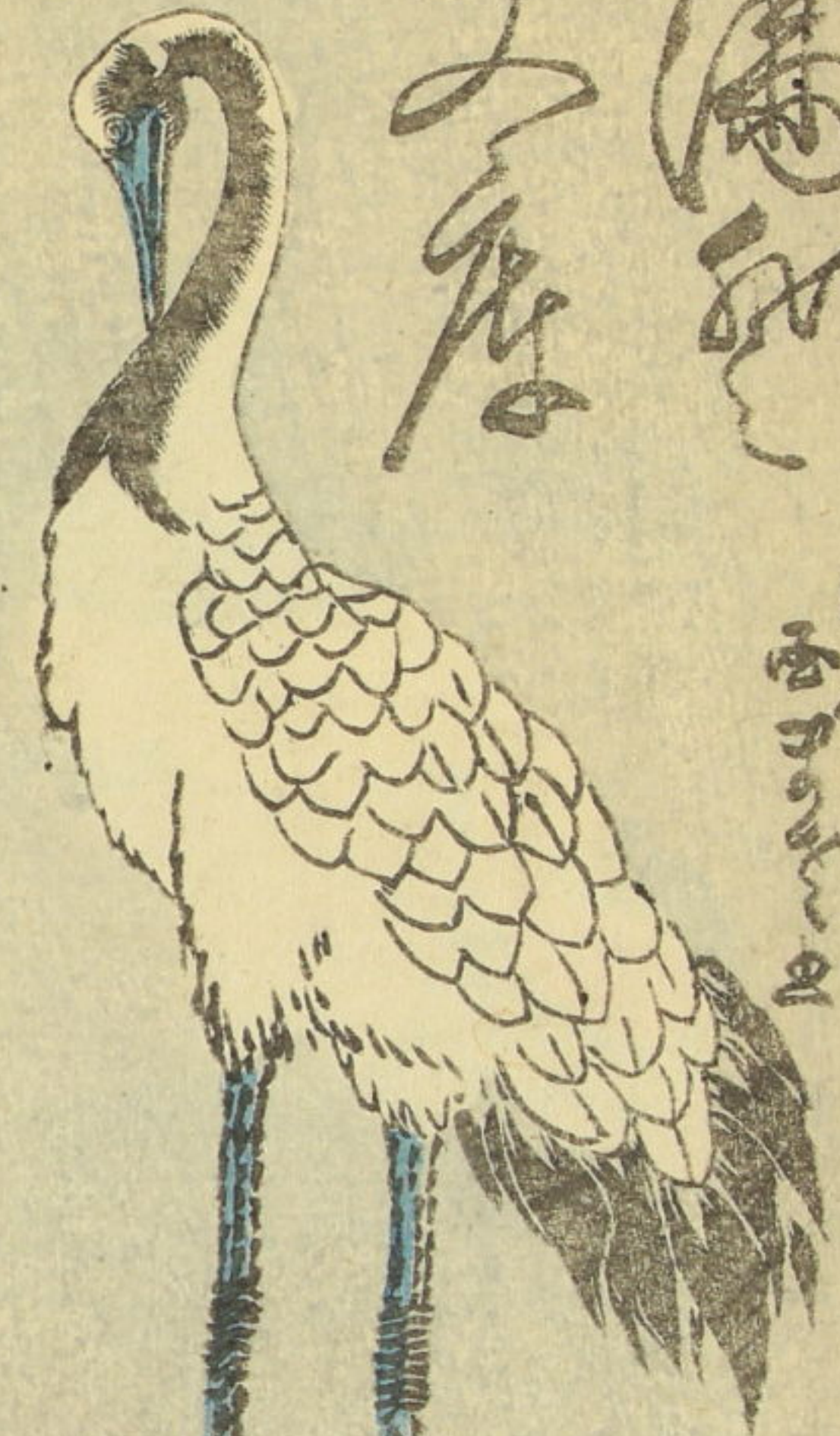
上の巻

万亭應賀作

一陽齋豊国画

嘉永四年

辛亥春新刊

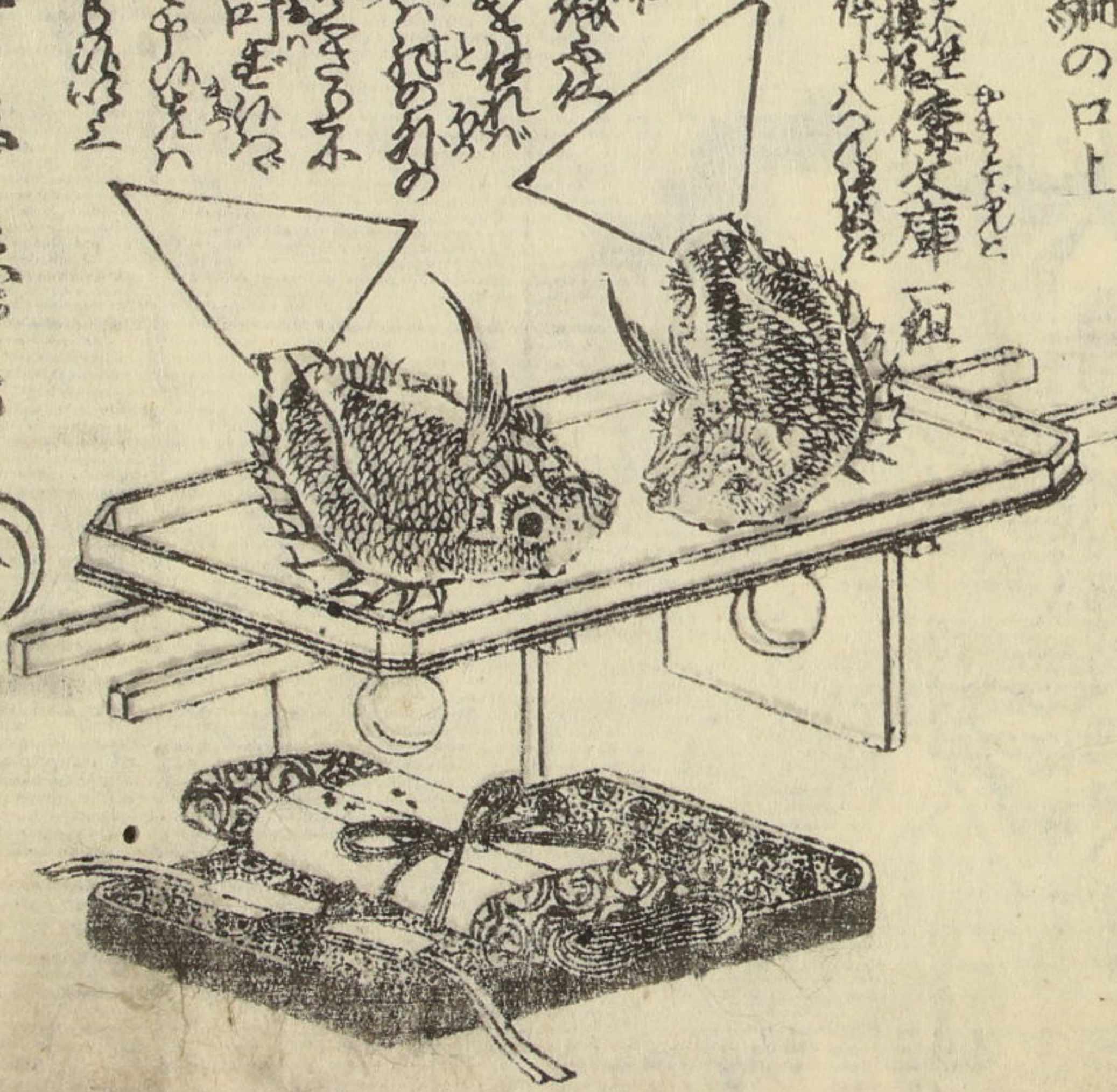


元大坂町代地角

上州屋重藏板

釋迦八相傳文庫拾八編の口上

目録
 一 釈迦八相傳文庫拾八編の口上
 二 釈迦八相傳文庫拾八編の目録
 三 釈迦八相傳文庫拾八編の巻頭
 四 釈迦八相傳文庫拾八編の巻中
 五 釈迦八相傳文庫拾八編の巻末
 六 釈迦八相傳文庫拾八編の終巻
 七 釈迦八相傳文庫拾八編の附録
 八 釈迦八相傳文庫拾八編の索引
 九 釈迦八相傳文庫拾八編の解説
 十 釈迦八相傳文庫拾八編の跋



正青 一流戲作の元祖 万亭應賀作

朱文 萬年



伽羅々仙人

天童子

悉達太子の
 照普光王
 名を改めて
 金剛法石
 行をす



天童子



水戸文庫



耶輪陀羅女
 御所へ歸りて悪
 者の樂書目多小
 局女中と猪共小
 無實の罪小落
 り玉ひ不眠責
 小逢くま小

櫻議の伎
 侍の侍

水戸文庫



春二月八日
 庚寅の日はあつちよひそふ王宮
 のかんろえんくあそとけいわさうそつ
 王様
 金銀
 鳥

ありあつちよひそふ王宮
 のかんろえんくあそとけいわさうそつ
 王様
 金銀
 鳥

永世文章十八



秋の夜
 鳥

鳥
 鳥
 鳥



水鏡

水鏡

安政三年丙辰春新板目錄

倭文庫 三十四編 三十五編 三十六編 三十七編 萬享應賀作	赤松譚 九編 十編 同如洲外史作	重井菱 六編 七編 同為永春水作	譚柄瑠璃 四編 五編 西澤一鳳作	茶番案文 全冊 萬享應賀作	神代七 三編 四編 同勇齋國芳作	重本類錦繪 上州屋重藏
--	------------------------	------------------------	------------------------	---------------------	------------------------	----------------

應賀作豊國画



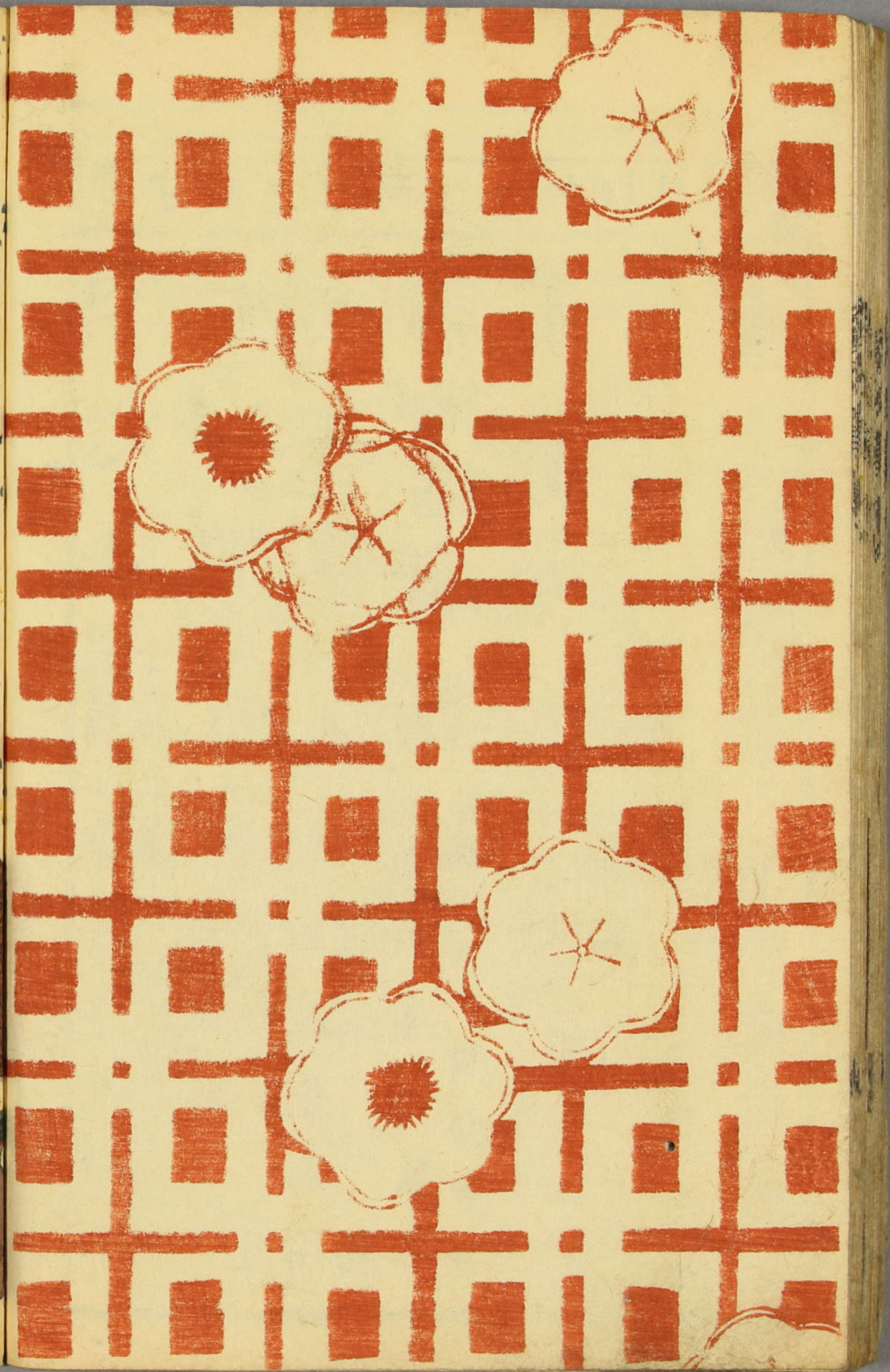
一陽齋豐國画

嘉永四年
辛亥春
新梓



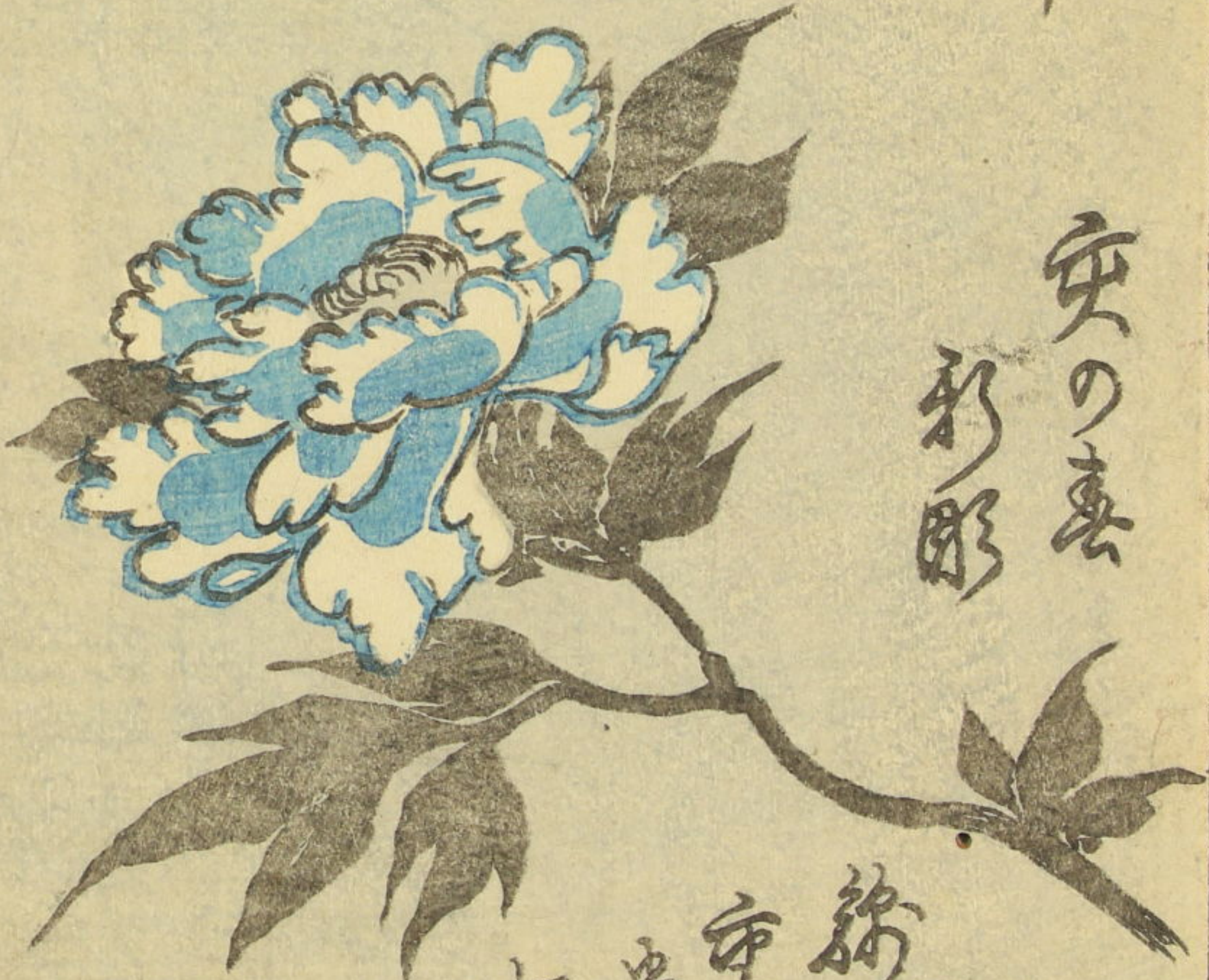
上州屋版

下





倭文庫
 十海
 中江巻
 應賀巻
 壹國画



実の妻
 彩彫

板巻電筋



新編 浮城物語

十一



万亭應賀作の陽齋豊國画



安政三年丙辰春新板目錄

倭文庫出世双六 万亭應賀作 一陽齋豊國画

春遊 将碁双六 同 歌川貞房画

男女 役替双六 同 一陽齋豊國画

大寶御江戸圖 極上摺 奉書六枚半續

清元稽古本 初編 二編 出板

常磐津懷中本 初編 二編 三編 四編 退と出板仕

極上摺 擬百人一首 陽齋豊國合筆



林
主
南
本
叙